科目ナンバリング	U-LAS02 20010 LJ36						
授業科目名<英訳>	日本古典講読論II Reading in Japanese Classics II			担当者所属職名・氏名	国際高等教育院 教授　　長谷川　千尋		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	芸術・文学・言語(各論)	使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	火3	配当学年	2回生以上	対象学生	全学向

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

「源氏見ざる歌詠みは遺恨の事也」とは藤原俊成の言葉であるが、歌人や連歌師は、『源氏物語』のどのような言葉・場面に魅力を感じ、その詩想を養ったのであろうか。このような観点から、文安六年（1446）、祐倫の手になる『山頂湖面抄』という源氏物語梗概書を読む。併せて『源氏物語』本文や、それを享受した作例等にも触れ、巻ごとに源氏絵を参照する。

[到達目標]

・講義中に取り扱った『源氏物語』本文、及びその梗概書や享受作品の内容を理解し、説明できる。

・歌人・連歌師による『源氏物語』享受の特色を理解し、説明できる。

[授業計画と内容]

第１回『山頂湖面抄』概説・蛍
第２回　常夏・篝火
第３回　野分・行幸
第４回　藤袴・真木柱
第５回　梅枝・藤裏葉
第６回　若菜上・若菜下
第７回　柏木・横笛
第８回　鈴虫・夕霧
第９回　御法・幻
（匂宮・紅梅・竹河は割愛する）
第10回　橋姫・椎本
第11回　総角・早蕨
第12回　宿木・東屋
第13回　浮舟・蜻蛉
第14回　手習・夢浮橋
《学期末試験》
第15回　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

定期試験（筆記）により評価する。

日本古典講読論II(2)へ続く↓↓↓

日本古典講読論II(2)

[教科書]

使用しない
プリント配布。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回、授業の予習として、講義で取り上げる『源氏物語』の巻を原文で通読しておくのが望ましい。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]